

令和6年12月 定例教育委員会会議録（要点筆記）

日 時：令和6年12月24日（火）9時30分～11時30分

場 所：基山町庁舎2階 201会議室

教育委員：出席4名 田口英信（職務代理者）、津川典善、福永真理子、秋吉奈穂

教育長：柴田昌範

事務局：古賀課長、堤係長、音成指導主事、水田指導主事

傍聴者：なし

教育長報告

はじめに（教育長あいさつ）

12月下旬となり、小中学校では、今日が終業式となっている。インフルエンザの流行を心配していたが、大きく流行することはなく、学級閉鎖も今はない。

これから来年度に向けて、人事異動関係の県教委との話し合いも開始されていく。

12月初めにはふれあいフェスタが行われ、たくさんの方々にご来場いただいた。福永委員さんを中心に半年間のご指導、ご準備いただいた創作劇も上演され、素晴らしい内容で好評だった。

教育長報告

1. 人事関係について

(1) 異動事務関係

・校長、教育長、事務所長合同面接

本日12月24日（火曜日）午後、役場にて実施する

(2) チーム担任制について

(3) 不祥事防止（飲酒運転撲滅関係）

県内で教職員の飲酒運転という不祥事があったとため、県教育委員会から各市町で教職員に厳しく指導するよう詳しい資料等もいただいている。「飲酒運転根絶チェックリスト」も作成され、教職員の意識強化を図っている。また、「信頼される教職員であるために」や「アルコールが脳に与える影響」、「飲酒は遅くとも22時まで」の資料を携帯できるようにし、飲酒運転撲滅のための方法についても具体的な手段・方法を各学校で確認を行うようにしている。

○飲酒運転撲滅実行宣言について

・各学校の飲酒運転撲滅宣言内容（飲酒運転をしない・させない・許さない宣言）

【基山小学校】

○公共の交通機関で行きやすいお店を選びます。

○飲酒の際は、公共交通機関を利用します。

○帰宅方法をお互いに確認します。

【若基小学校】

○飲酒するときは、原則、車（自転車）は持ち込まない！

○もし、車で来たら置いて帰るか、代行で！（帰宅方法を周囲に伝えます）

○深酒をしない。飲みすぎたら翌日（午前中）は車の運転をしない。

※飲酒運転＝即懲戒免職 自分と家族を人生の路頭に迷わせないようにしよう。

【基山中学校】

○飲酒の有無を確認します。 ○帰宅方法を確認します。

○運転代行の事前予約と配車を確認します。

2. 町教育行政関係報告

(1) 若基小学校小規模特認校制度について

来年度新1年生 6月 33名(27名+6名)

10月 41名(33名+8名)

12月 46名(39名+7名) ★2学級になることがほぼ決定

◇来年度の若基小新1年生は6月時点で33名しかいなかったもので、かなり2学級になるのは、難しいのではないかと予想していたものの、就学時健康診断までの半年間で13名増加し、46名となった。

◇通学区域審議会では、今回の結果を踏まえて、この制度のまま引き続き、小規模特認校制度を活用する方向性で協議していただくこととしたい。

(2) 12月定例町議会

①補正予算

<予算額> ガイダンスセンター整備基本調査 2,500 千円

<事業概要>

歴史的風致維持向上計画に基づき、町民及び来訪者が特別史跡基肆城跡や大興善寺、長崎街道など基山町内の歴史と文化に触れるための、様々な情報等を得ることができるガイダンスセンターを設置する。また、このガイダンスセンターは町で活動する関係団体の活動拠点施設ともする予定である。このガイダンスセンターの設置に向け、「建設場所の決定」「建物配置等検討(建築CGパース)」「施設運営方針の決定」3項目のための基本調査を行う。

②一般質問関係

松石 健児 議員 新たな移住・定住に向けた今後の取組について

(1)特定居住促進計画策定の際、二地域居住におけるデュアルスクールは、児童生徒が異なる環境や文化に触れる機会が増え、多様な経験を積むことができるほか、児童生徒の自立心や適応力を養う助けにもなる。小規模特認校制度と併用し、若基小学校の魅力の一つとして検討してはどうか

デュアルスクールは、既存の「区域外就学」という制度を活用して、住民票の異動をすることなく他地域への公立小中学校へ学籍を異動し、滞在先の小中学校に通学が可能となる制度。住民票のある学校では欠席にならず、受入校で出席日数として認められ、1年間で複数回の行き来も可能。

小規模特認校制度を導入している若基小学校のさらなる活性化にもつながる可能性もあるが、制度利用にあたって本町教育委員会と相手先教育委員会との協議が必要。教科書や授業進度の違いで未習や既習の内容があったり、運動会などの行事を2度経験したり、逆に経験できなかったりする場合が出てくる。県で特定居住促進計画が策定された際は、学校と連携を取って柔軟に対応したい。

栗野 久明 議員 基山中学校の部活動について

(1)基山中学校の部活動の数と部員数をスポーツ・文化部ごとに示せ

部活動の数は運動部が13、文化部が3。

部員数は、運動部が244人、文化部が88人。

(2)生徒数が減少している中で、ここ数年で廃部となった事例はあるか示せ

全国的には、生徒数が減少し、集団で行う部活動が減り立たず、廃部となる事例も多いが、本町において、生徒数はむしろ増加傾向にある。ここ数年で、廃部となった事例はない。

(3)地域の指導者による活動状況を示せ

地域から指導していただいている方には、部活動指導員と外部指導者がおられる。

部活動指導員は、顧問教員に代わって、単独で部活動指導や学校外での試合等で引率業務を担うことができ、学校教育法施行規則に基づく、学校職員の位置づけ。

外部指導者は顧問の教諭等と連携・協力し部活動のコーチ等として技術的な指導を行う立場。

男子卓球部、女子卓球部、野球部、男子バスケットボール部、吹奏楽部、男子バレーボール部の6部活動に部活動指導員。柔道部と女子ソフトテニス部の2部活動には外部指導者として携わっていただいている。

(4)地域の指導者への報酬で予算上の課題はないか示せ

現在は、部活動指導員の報酬・謝金については、国からの補助等があるため、特に大きな課題はない。ただし、全国の各市町村で地域移行が進んでおり、本町でもさらに部活動の地域移行を進めていくことから、地域の指導者の人数が増えるが国からの補助がそれに伴って増えることを期待することは難しいため、報酬については、今後の課題である。
(5)地域連携や地域クラブ活動への移行により、教員の負担軽減は図られているのか示せ
部活動指導員を配置している顧問へのアンケート調査によると「教師に専門的技術指導を求められないこと」や「教科指導、学級指導に重きを置けること」、「週末に家族との時間が確保できること」など、負担軽減が図られているとの回答があり、肯定的な意見が多くみられた。
大山 勝代 議員 保護者の教育費負担の軽減について
(1)9月議会の私の一般質問で、「学校費用の支援拡充ができないか検討したい」と教育長は回答されている。どう いう検討がなされたのかを示せ
経済的な理由で児童生徒を就学させることが困難な家庭へ支援を行っている就学援助制度の認定基準についての見直しを行っている。また、就学援助家庭への部活動等の補助についても検討中。 本町では、町内の小中学生に対して実用英語検定試験受験料の全額補助を行っているが小学校高学年と中学生を対象に英検のプレテストである英検 IBA 団体受験の補助も検討したい。
(2)「教育費は無償とする」の観点から本来公費で負担すべき教材費等は何があるか考えるか
義務教育はこれが無償とするとされており、多くを公費で負担している。ただし、児童生徒が個人で所有する教材等は受益者負担としている。本来、公費で負担すべき教材等については、基本的に公費で賄っているが、公費で購入し、共用できるものがないか、今後、引き続き検討したい。 このことについては昨年度、PTA と町教育委員会との教育懇談会で保護者負担や PTA 負担で見直すところがないかについて協議した。
(3)一斉共同購入と学校備え付け備品についての区別を示せ
一斉に購入してもらうものとしては、各個人が使用し、また共用が難しいもの、例えば鍵盤ハーモニカ、リコーダー、習字道具、裁縫道具など。 学校備え付け備品は、みんな共同で使用できるもの、例えばそろばんや電卓など。
(4)町から学校への教育予算の増額は考えられないか
学校事務職員や各学校長とも十分、協議の上で児童生徒に必要な教材に関する予算は計上している。今後、公費で負担すべき教材、教具等があるようであれば、学校とも協議し、検討する。
(5)改めて給食費無償化の見解を示せ
学校給食法で食材に係る費用は、受益者負担とされているが、生活困窮家庭の児童生徒には、町で生活保護や就学援助などの助成制度によって給食費についても全額補助を行っている。 令和4年 11 月から多子世帯への支援事業として、町内小中学校に同時に通う児童生徒のうち第3子以降の給食費を全額補助する制度を導入している。給食費については、物価高騰に伴って、値上げを検討しているが、第3子以降の補助対象を 18 歳到達後の最初の年度末までの家庭に拡大できないかなど、引き続き検討する。
(6)高額な制服や、ランドセルなどの「お譲り会」の企画等は考えられないか
制服のお譲り会は、若基小 PTA の企画で実施されている。基山中学校は、令和5年度に「ジェンダーレス」対応の制服となったため、この数年は実施されていない。来年度、すべての学年で新しい制服になることから、再開されるのではないかな。 ランドセルのお譲り会は、九州産業大学や久留米大学、中村学園大学などの学生主催で無償お譲り会が10月に福岡市で開催されたし、今月、久留米市でも実施される。本町でも社会福祉協議会主催による「お譲り会」で制服やランドセルなどが出品されている。 ランドセルについては、高価な革製ランドセルが必須ではなく、軽量の布製などでよいことについて、町から早めに新入学児の保護者の方へ周知していきたい。
2問目以降 町で保護者負担を減らすために公費で何か買う予定などはないのか。
現在もデジタル教材、e ライブラリの購入や無料塾の提供など他の市町ではやっていない補助などを行っているところである。
松石 信男 議員 ジェンダー平等(男女共同参画)の現状と課題について
(1)近年の小中学校の女性校長の登用の状況を示せ

本町の今年度の町立小中学校の校長は、3校とも男性だが、小学校2校には女性教頭が管理職として登用されている。校長は平成30年度から令和4年度までは基山小学校で女性が務めていた。 県内小中学校の校長のうち、女性が占める割合は今年度24.7%、教頭が34.0%で、その割合は年々増える傾向にある。
工藤 絵美子 議員 子ども・子育て世代への支援の充実について
(1)移住希望者に届けたい本町の小中学校における教育や学校環境の魅力について示せ
3校ともに施設設備、学習環境が整っており、小中一貫教育で学習習慣の形成、学力向上、情報活用能力、英語力向上などに力を入れている。広い運動場があることも魅力の一つ。 無料塾の実施やセカンドブックプレゼント事業などは近隣の市町にない取組。不登校児童生徒の居場所づくりとして小学校に「さくらルーム」を設置したことも新しい取組。待機児童無しの放課後児童クラブが小学校の敷地内にあることも魅力だと思う。
2問目以降 小学生の英語について無料塾の提供などは考えていないのか。
ALTを授業で活用などして英語力向上には力を入れているが、無料塾については、今のところ英語の追加は考えていない。
(2)学童保育の令和6年度4月時点の学童保育の入所希望者数、入所児童数、待機児童数を示せ
令和6年度の学童保育の入所希望者数は、基山小学校のひまわり教室が222人、若基小学校のコスモス教室が78人。入所児童数は、同数。待機児童数は「なし」。
(3)学童保育における課題と今後の取組を示せ
毎年、受入児童数が増えており、学校施設を借りる必要があるなど、学校との協議が必要になっていることと支援員、補助員の確保をすることがこの数年の課題。 これまでもハード面の整備だけでなく、ソフト面でも受入時間の延長や受入対象学年の拡大など、様々な対応を行ってきている。 また、子育て支援ネットワークコーディネーターや要配慮児童対応支援員委託事業等の利用で、より良い支援ができるよう努めている。今年度から年間6回、支援員、補助員の研修会を実施している。
2問目以降 放課後児童クラブが夏休み朝8時にしか開かないため、外で暑い中に待機している児童がたくさんいる状況である。この解決に向けてないか対策はないか。
夏休み期間、酷暑の中、外の炎天下で待つのは確かに大変かと思うので、校舎内で待機させる場所を設けることができないかについて検討したい。
(4)今年の猛暑を受け、小中学校での熱中症対策について今後の取組を示せ
「基山町立学校における熱中症警戒アラート等対応基準」を作成し、生命に関わる事態とならないよう学校に指導している。施設設備では、夏の体育館の暑さ対策について来年度へ向けて検討中。 登下校の暑さ対策として、日傘使用の推奨を更に行っていきたい。 遠距離通学の児童については、コミュニティバスの利用を認める制度を昨年の10月に導入し、今年の9月からは、遠距離通学者への自家用車送迎許可証の発行を行うなどの対策も行っている。 夏休み期間に関する教職員アンケートを実施する予定。 ち帰りに伴う教科書の持ち帰りをさせない方針の徹底なども行っている。
2問目以降 夏の暑さ対策に短パンなどの導入は考えないのか。
新たに制服を導入すると保護者負担を増やすことになってしまうので、猛暑の期間のみは、体操服での通学も可とするようなことについて中学校と協議したい。
中牟田 文明 議員 不登校について
(1)全国的に不登校の児童生徒が増えている理由を示せ
ストレスや不安などのメンタルヘルス、昼夜逆転などの生活リズムに起因することであったり、友達関係のトラブルであったり、集団への不適應であったり、学習へのやる気を持てなかったりと様々。 かつては、不登校の子どもに対して強制的に学校に行かせようとした時代もあったが、今では不登校の考え方、受け止め方が変わってきている。最近では「無理に学校に行かせなくてもよい。他の選択肢の中で過ごしやすいところで学べればよい」という考え方で、子どもの居場所をきちんと確保する流れができてきたことも要因だと考える。
(2)不登校の児童生徒を減らすための対策は行っているか

要因がいじめや友達関係のこともあるため、いじめの未然防止と早期解決は、アンケート調査や人権集会、人権週間の設定などをはじめ、様々な取組を行っている。学校が楽しい場所となるよう、学習だけでなく、学校行事の設定や勤労生産、体験的な学習を取り入れている。 学校・学級生活への不適応、不登校、いじめ被害の可能性の高い子どもを早期に発見できる心理テスト「Q-U」テストを実施して、学級集団の分析を行っている。その他、担任だけでなく、各学校の教育相談担当や管理職などで組織的に取り組み、SC、指導主事などとも連携を取っている。 完全不登校とならないように教育支援センターを設置したり、基山小学校と基山中中学校には別室を設けたり、基山中には不登校加配教員を置いたりするなどの対策も行っている。
大久保 由美子 議員 ひきこもり支援について
(1)小中学生のひきこもり予防について考えを示せ
小中学生が完全不登校となり、ひきこもってしまうと、社会性の育成やコミュニケーション能力の育成などが難しくなり、本人に将来へ影響が及ぶ可能性がある。学校だけでなく、教育委員会、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等による連携した対応が必要。 町では教育支援センター「まいるーむ」の設置の他、基山小学校と基山中中学校には別室を設けるなど、居場所づくりにも力を入れている。 昨年度からは、県から不登校コーディネーター派遣事業により不登校にかかる組織的な取組や対応等について点検、評価をしてもらっている。保護者と関係機関を交えた話し合いの場を設定するなど、組織的に解決していくことが重要かと考える。
佐々木 教雄 議員 特定健診と健康増進のあり方について
2問目以降 多久市や南阿蘇村などでは先進的な取組を行っているが、中学校から成人病予防等の取組ができないか。
生活習慣病については、保健体育の中で小学校では「病気の予防」、中学校では「健康な生活と疾病の予防」という単元で学習している。食育や学級指導等でも健康に関する指導を行っているが、多久市や南阿蘇村では、血液検査を児童生徒に実施してその結果をもとに生活習慣病について深く学ぶような取組を行っているようなので、そういった先進地の取組についても参考にしたい。
水田 志保 議員 安全・安心なまちづくりについて
2問目以降 AED に関する小中学生、教職員等への普及啓発が必要ではないか。
各小中学校には、AED を室内に設置していたが、いつでも使用できるようにということで現在は外に設置している。児童生徒への啓発としてことも110番の家マップに AED 設置場所が追記できないかを検討したい。教職員については、研修の機会を設けており、いざというときに使えるように今後も学校で引き続き、研修等を行って不測の事態に備えたい。地域の方にも学校に AED があることを知っていただくような広報も行う必要がある。

(教育委員) 学童の 8 時前開所は保護者の仕事の都合でということか？

(教育長) 学校が 7 時 40 分ごろ登校しているので、それと同じぐらいの時間であれば別途料金をいただいて預かるということも対応策としては考えられるが、人の確保も含めて課題は多い。

(課長) 学童の支援員との調整が必要になる。シフトを早めることが可能かを確認する。

(教育委員) 学童の開所時間を早めるのは、簡単に判断せず、慎重に検討を進める必要がある。

(教育委員) ランドセルについては、買い始める時期が早くなっているの、保育園等と連携して、案内を進めていけば、「軽くて、安いランドセル」についても広まっていくのではないかな。ただし、布製のバックも正直驚くほど安いわけではない。それならばネットで安いランドセルを探した方が安く手に入れられる可能性もある。

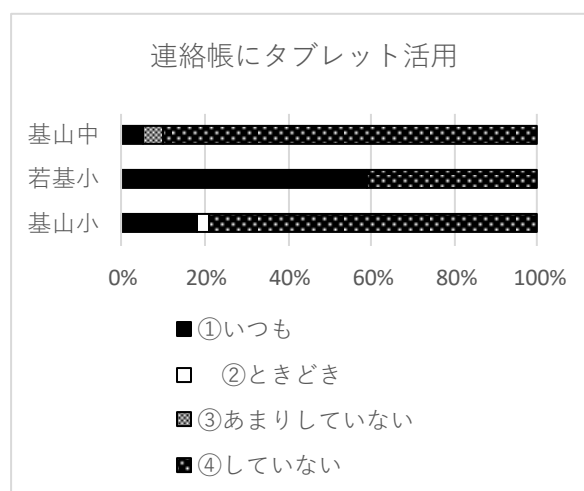
(指導主事) 中学生の通学バックについて、現在、タブレットが入るような通学バックを検討しているが、それも金額的にはとても安いわけではない。ただし、学校からのオーダーで推奨バックみたいなものをお願いすることは可能である。中学校のバックを小学校でも使えるようにしてもいいかもしれない。(リュック形式)

(教育長) 革製ではない 軽量のタイプでよいことなどを知らせるチラシ等の作成を検討していく。

(3) タブレット活用状況と夏休み期間に関するアンケート調査結果について

①負担軽減、効率化、時間短縮のため、連絡帳を書かせずに黒板を写真で撮るなどして配信しているか？

	①いつも	②ときどき	③あまりしていない	④していない	⑤該当せず
基山小	6	1	0	26	14
若基小	10	0	0	7	6
基山中	1	0	1	18	18
合計	17	1	1	51	38

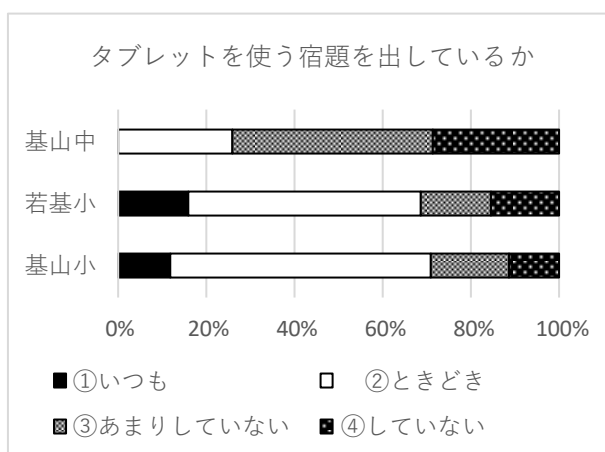


タブレットを活用して連絡帳を書く手間を省いて有効活用している割合は、基山小が約20%、若基小が41%、基山中ではほとんど利用されていない状況だった。

手軽に利用し、手間も省ける手段だけにこのような使い方が一般的になることが将来的には予想されるが、連絡帳は手書きで書かせるべきものであるといった意識をもつ教員もいることがうかがえる。

②宿題でタブレットを使う宿題を出しているか？

	①いつも	②ときどき	③あまりしていない	④していない	⑤該当せず
基山小	4	20	6	4	13
若基小	3	10	3	3	4
基山中	0	8	14	9	7
合計	7	38	23	16	24

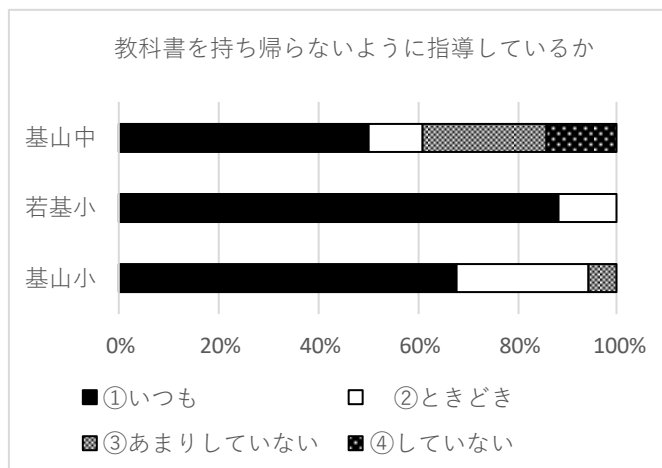


2学期から端末の持ち帰りを始めたが、タブレットを使う宿題が出ないと持ち帰りの意味もないことから、今後、タブレットを活用した宿題を増やす必要がある。

現在の実態を見ると、小学校でいつも出しているという教員の割合は、約10%程度、ときどきを含め70%となっている。一方であまりしていない、全くしてないと答えた教員も3割程度いるなど、まだまだ課題が残る結果となっている。

③教科書を持ち帰らなくてもいいように指導しているか。

	①いつも	②ときどき	③あまり	④してい	⑤該当せず
基山小	23	9	2	0	13
若基小	15	2	0	0	6
基山中	14	3	7	4	10
合計	52	14	9	4	29

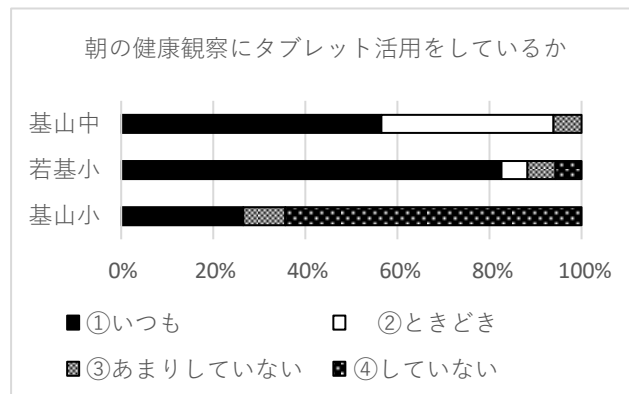


タブレット持ち帰りによって小学生の持ち帰りの荷物が増えて、子どもたちの負担になっているとの声があったため、教科書の持ち帰りを極力しないようお願いしている。

若基小学校では、ほぼ定着できているが、基山小や基山中では若干、指導差がみられることが分かる。

④朝の健康観察でタブレットを活用しているか。

	①いつも	②ときどき	③あまりしていない	④していない	⑤該当せず
基山小	9	0	3	22	13
若基小	14	1	1	1	6
基山中	9	6	1	0	22
合計	32	7	5	23	41

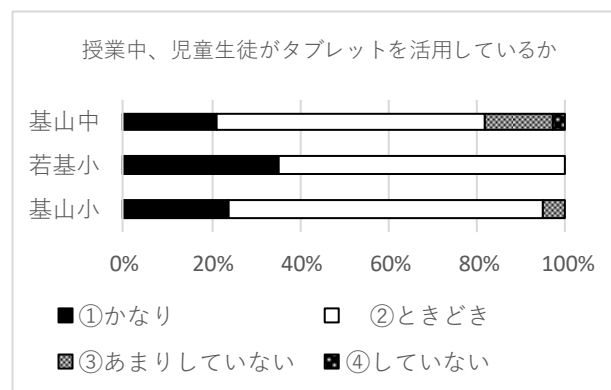


朝の健康観察にタブレットを活用することについては、若基小で、よく定着し、活用されていることが分かる。基山中でも多くのクラスで活用されている状況がうかがえるが、基山小では、この健康観察に抵抗を示す教員がいるなどしてあまり活用されていないことが分かる。

若基小で使用して好評であることから、基山小や基山中でも使用されるよう好事例を紹介するなどして普及させていきたい。

⑤授業中、児童生徒がタブレットを活用しているか。

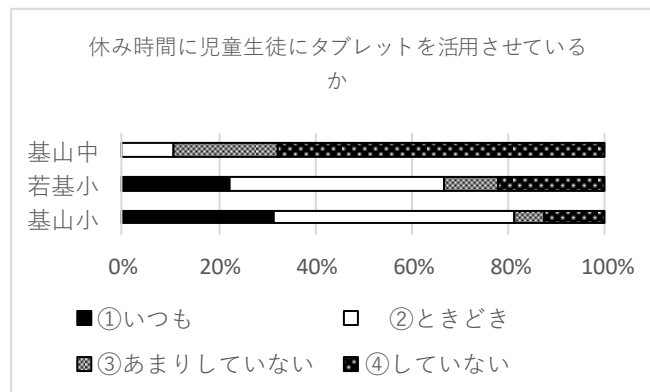
	①かなり	②ときどき	③あまり	④していない	⑤該当せず
基山小	9	27	2	0	9
若基小	7	13	0	0	3
基山中	7	20	5	1	5
合計	23	60	7	1	17



授業中の活用について尋ねたところ、若基小ではかなり使っているが30%を超えており、ときどきを合わせると100%と高い数値となった。基山小、基山中では、あまり使っていないという教員もいることから、子どもたちの情報活用能力に格差がでないよう、すべての教員ができるだけ積極的に端末を利用するよう、研修の機会を増やしたり、先進的な事例を示したりなどの取組を行っていく必要がある。

⑥休み時間に NHK for School、桃鉄教育版、スクラッチ、タイピングなどのサイトを決めて児童生徒に使わせている。

	①いつも	②ときどき	③あまり	④していない	⑤該当せず
基山小	10	16	2	4	15
若基小	4	8	2	4	5
基山中	0	3	6	19	10
合計	14	27	10	27	30



休み時間の活用について、教育委員会としては、校長研修会の中で「NHK for School、桃鉄教育版、スクラッチ、タイピングなど特定のものに限って使用を認めてどうか」と提案したところだが、各学校間でかなり差がある結果となった。

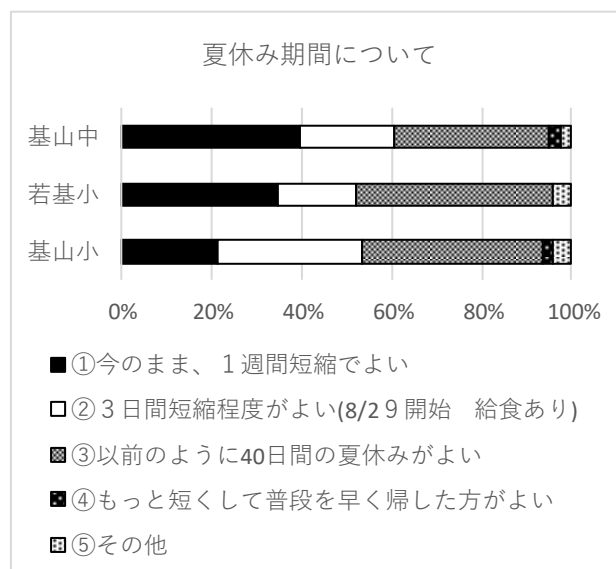
制限をかけるのが難しい、タイピングゲームなどをしてなかなか止められない子がいて困るなどの声も聞こえてきており、統一したルール作りを早期に行う必要がある。

⑦夏休み期間設定に関するアンケートについて

	基山小	若基小	基山中
①今のまま、1週間短縮でよい	10	8	15
②3日間短縮程度 (8/29 開始給食あり)	15	4	8
③以前のように40日間の夏休みがよい	19	10	13
④もっと短くして 普段を早く帰す	1	0	1
⑤その他	2	1	1
合計	47	23	38

夏休み期間を現在のとおりの1週間短くしたままがよいかどうかを尋ねたところ、上に示すような結果となった。中学校では今のまま、以前のように40日間が同じくらいであったが、小学校では今のままと3日間短縮の合計と40日間に戻すが同じくらいの割合であった。

この結果を受けて、来年度からの夏休み期間の設定をどうするか、保護者への意見聴取を行うかどうかも含めて、検討していくこととした。



(教育委員) 夏休みの日数については、今の体制になって数年しか経っていないこともあり、変更するのは慎重に検討していく必要がある。

(4) 学校健診の状況について

健康診断を受診した時に、受診勧告を受け、病院の受診をしていない児童生徒に対し、チラシ等を作成し、受診を促すように働きかけていく。

(5) 中学校体育館について

耐力度調査を行った結果、建て替えが必要との回答があった。現地建て替えの場合、長期間体育館の利用ができないという大きな課題があり、別の場所での建設が可能かどうかも含めて考えていく予定であるが、様々な問題を解消する必要がある。どのように今後、進めるか検討している状況である。

(6) 保護者負担を減らすために

- ・新1年生の机の引き出しと防犯ブザー購入してはどうかと検討中
- ・英語検定試験判定テストの全員受験機会の確保を行ってどうか
- ・給食費値上げ分の補助について検討中

指導主事より小中学校の現況報告

<生徒指導>

- ・小中学校の状況について(児童生徒及び教職員)
各学校の行事に関する報告及び生徒指導関係などについて報告。
- ・教育支援センター「まいる一む」の利用状況について
クリスマスが近いので、先日クリスマス会を実施し、その際過去最高の19名の参加があった。
- ・さくらルームの利用状況については、利用者が増えていて、運用に支障がある場合がある。
運用方法等について、学校とともに改善をすすめている。

議案審議

第18号議案 令和6年度要保護および準要保護児童・生徒の追加認定について
2件申請 1件認定 1件不認定（本町の基準に照らして判断）

報告及び協議事項

（1）就学援助の見直しについて

- ・クラブ活動費（部活動費）等の補助の現状と課題について資料に基づき説明。また、その他、就学援助の拡充していくべきかどうか検討する項目について説明。

（教育長）部活動が地域展開している状況なので、地域展開の状況が固まり次第、検討を進めていく。

（教育委員）運営費が安いチームもあるなか、本人たちが選んではいっているのに、クラブチームに入っている子どもたちへの支援は不要なのではないか。ただし、今後の部活動の地域展開の状況によっては検討が必要になるかもしれない。

（教育委員）すでに部活動がクラブチームとして展開している事例も出てきている。状況が固まるまで全く検討をしないのではなく、現状から検討を進めていく必要があるのではないかと。

（2）特別史跡基肆城跡シンポジウム開催について

3月23日（祝日）開催予定

- ・資料に基づき概要について説明

（3）ふれあいフェスタ報告について

- ・資料に基づき報告（給食試食会、創作劇など）

（4）名義後援について

- ・資料に基づき説明 5件 ⇒ 承認

（5）11月定例教育委員会会議録の承認について

- ・資料に基づき説明 ⇒ 承認

（6）今後の行事予定について

【3校共通】

12月24日（火）2学期終業式

12月25日（水）～1月7日（火）冬季休業

1月08日（水）3学期始業式

【基山小学校】

1月09日（木）給食開始

1月10日（金）CRT標準学力テスト1年生のみ

1月16日（木）新入学児保護者説明会

1月23日（木）授業参観 第3回学校運営協議会

【若基小学校】

1月09日（木）給食開始

1月15日(木) CRT標準学力テスト1年生のみ

1月16日(木) 避難訓練(予告なし)

1月17日(金) 新入学児保護者説明会

【基山中学校】

1月08日(水) 給食開始

1月21日(火) 職業人に学ぶ (1年生) 5. 6校時

1月23日(木) 高校の先生に学ぶ(2年生) 5. 6校時

【町・教育委員会・地域関係】

12月27日(金) 執務納め式

1月06日(月) 執務始め式、議会全員協議会

1月07日(火) 新年年詞交換会

1月12日(日) 基山町成人式 10:00～

1月13日(祝) 消防出初め式 9:00～

1月16日(木) 教育委員会佐賀県連絡協議会(県地連)・佐賀県ICT活用推進協議会

1月17日(金) 第1回東部管内人事異動教育長協議会

1月24日(金) 第2回東部管内人事異動教育長協議会

1月26日(日) 第7回佐賀県伝承芸能祭 13:25～14:15(御神幸祭り出演)

次回開催予定日

1月定例会教育委員会

令和7年1月20日(月) 9時30分から